
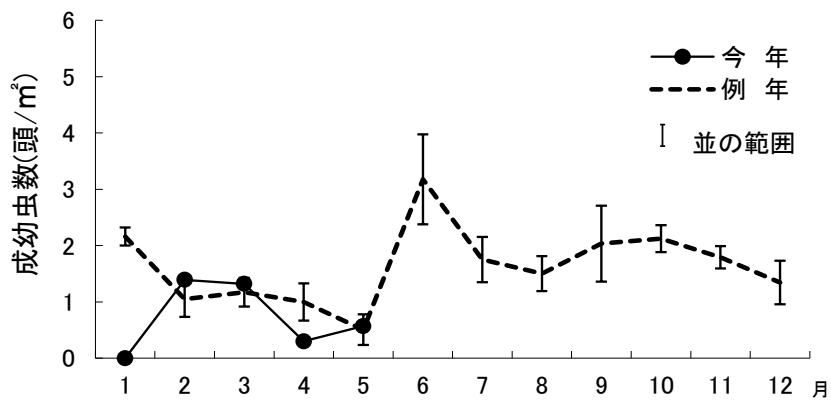


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
5月の発生量(現況)	並		
6月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。		

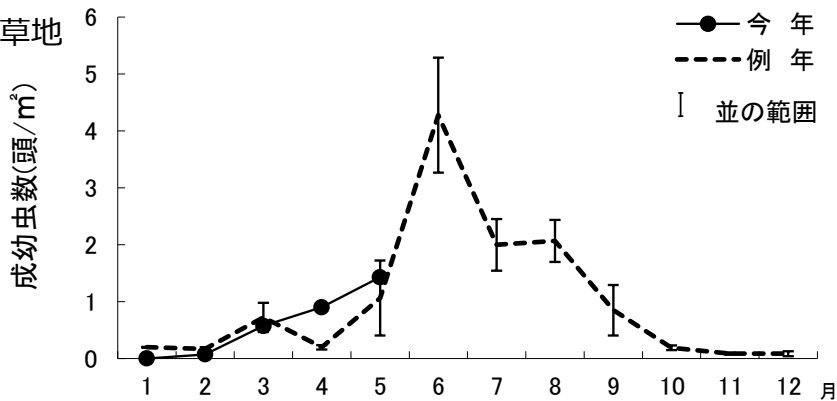
発生量の根拠(調査結果)

さとうきびほ場



来間島におけるバッタ類(さとうきびほ場)の発生推移

採草地




来間島におけるバッタ類(採草地)の発生推移

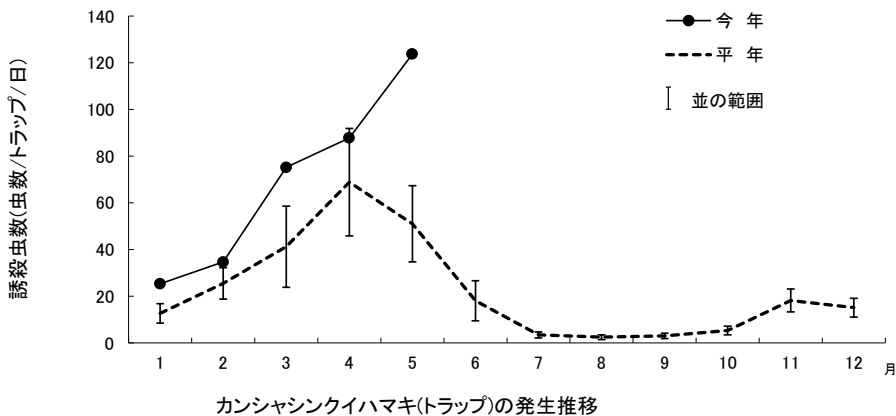
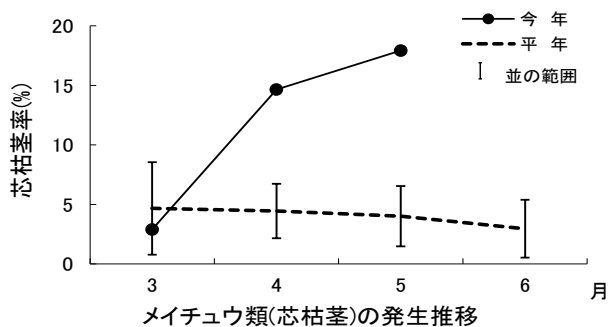
- ・ 優占種はタイワンツチイナゴだが、トノサマバッタも散見された。
- ・ 防除員の情報によると宮古島では少発生との報告あり。

防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
5月の発生量(現況)	多		
6月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



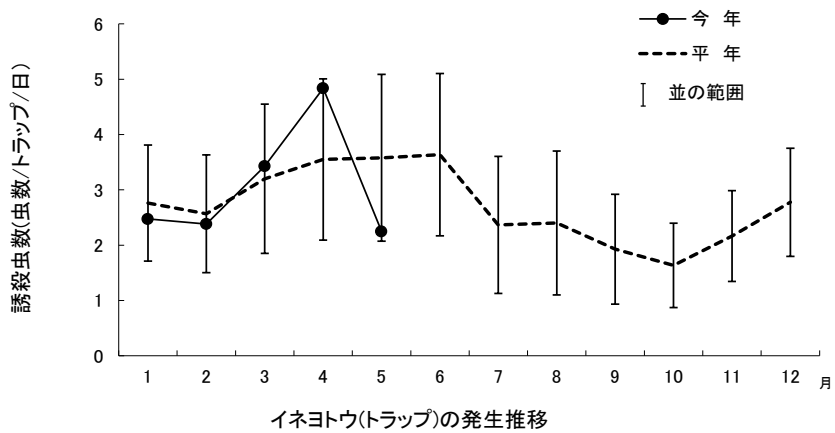
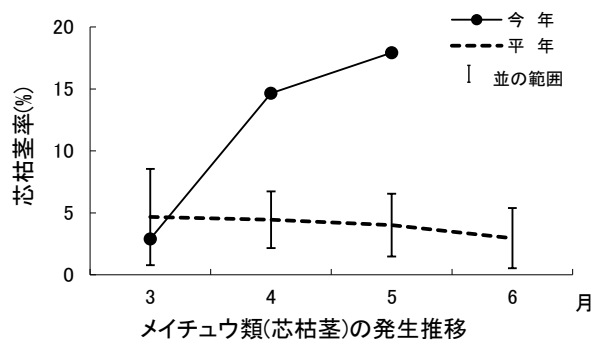
- ・宮古島及び伊良部島内における芯枯茎調査の結果、75%が本種であった。

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
5月の発生量(現況)	多		
6月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



- ・宮古島及び伊良部島内における芯枯茎調査の結果、約25%が本種であった。

防除のポイント

- ・卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時、培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。